

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	障がい児通所支援事業所 ちゅらハウス2号館		公表日		令和8年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	4	気持ちの切り替えができる場所が確保されている。雨の日は密集するので、もう少し広さがほしい	密集を避けるために、グループ分けをするなど工夫をする
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	今がベストだと思うが、休みの職員がでた時の配置数は改善余地が必要。	ハローワークに求人募集をしている
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	4	現在車椅子利用の児童がいて、玄関や出入口の段差が気になる	次年度は車椅子利用児は予定していないため、様子を見ながら対応を考えていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	3	なるべく物を置かず自由に動ける空間になるよう工夫している。建物の老朽化がみられる。毎日掃除をして清潔を保っている	普段頻繁に使わない物は押し入れに片づけるなどの工夫を今後も行っていく
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	3	構造上個室はないが、必要に応じて事務室で対応している。ペランダを活用することもある	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		毎日のミーティングにて確認し、夕方のミーティングで振り返りを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		ミーティングにて確認している。情報共有し意向確認をし話し合いをしている。	保護者の声を真摯に受け止め一つ一つ改善を行うと同時に、職員間での情報共有も行う。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		意見を言える場の確保ができています	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		アンケート等を行いながら第三者からの評価を受け入れかつ改善につなげている	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		各種研修の機会があるが、もう少し研修があっても良いと思われる。参加できる研修には参加している	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムを確認作成し公表している。	ホームページ上にて公開している
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		アセスメントを行い保護者とも話し合い適切に行われている	利用児の声、日々の状態の確認を行い、サビ管が保護者と面談のうえ作成をしている。利用児によっては、保護者のニーズが優先になることもある
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		検討を行い共通理解をしている	

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		職員間で共有されており、計画に沿った支援ができています	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		確認をしている	使用できていない箇所を確認し、原因をみつけ対応をしていく
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		支援に必要な項目で適切に設定されている。その上で、どのような支援内容を設定している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		活動内容を確認しながらチームで行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		基本的なプログラムの他イベント等も組み込みながら行っている。内容が固定しないように各担当が工夫をしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	2	個別活動と集団活動を状況確認しながら計画作成・支援を行っている	日々、利用児の状態が違いため、様々な事を配慮しプログラムを工夫していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	担当する内容、子どもの支援を含み職員間で打ち合わせを行い連携している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	日々業務終了前にその日の振り返りを行い内容を共有している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		記録を取る際、固定の支援員にならないよう工夫をしている。振り返りで話し合いを行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		短期・長期の目標をたてて見直しを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		組み合わせ支援を行っている	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3	2	子ども達が自分でできる、自分で選ぶことを重視した支援を行っている	思いが伝えきれない利用児に対して、その利用児にあった方法を見つけよう工夫していく
	関係機	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		各種会議に参画する職員をきめている
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		いつでも連携できる体制を整えている	
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	学校や保護者との情報共有は、その都度おこなっている。	
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		情報共有と相互理解に努めている	

関 や 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		支援内容等の情報提供を行っている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		様々な機会を通し連携に努めている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		交流する機会を作っている。児童館との交流は行っている	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5		参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		直接・電話・メール等を使いながら共通理解を持っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		情報提供を行っている	
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		面談時に説明を行っているし個別にでも説明を行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者への対応をも必要であれば面談を行ったり助言を行っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	2	年に一回、保護者会を開催している。	交流する機会を増やす
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情があった場合は、その時の状況でもあるが迅速かつ適切に対応を行っている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		毎月のお便りも含めメール等を使っての連絡を行っている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		取り扱いについては注意している	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		さまざまな連携等について配慮している	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		常にオープンであるようにしている。法人で行っている祭りに招待し交流をしている		

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルを策定しているし訓練も行っている	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		毎月訓練を行い様々な反省をしながら次につなげるようにしている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		確認しているし職員間で共有している	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	指示書はないが、提供時には保護者に確認を行っている。	保護者に指示書の提出をお願いする
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	事前に支援員同志で話し合い共有しあいながら措置を講じている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	家族への周知を行っている	一回限りではなく、説明を数回行う必要がある
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットは必ず文書にて報告し職員間での共有と再発防止にむけての対策をおこなっている	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修だけではなくミーティングないでも必要であれば課題にあわせて対応している	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		保護者との連絡、了承が一番大事であることを確認しながら計画に記載している。拘束した場合は記録をとっている		